

with a little help from my friends

－ 今、子どもたちに育ませたいもの －

副会長 成田 忠雄

仙台市学習状況調査によると、「自分にはよいところがある」という自己肯定感の有無を尋ねた結果は、震災前と比べると、各学年で2～8ポイント下回った値で推移している。これが震災の影響かどうかは不明だが、いずれにしても本市の子どもたちの自尊感情が低くなっていることは事実である。

自尊感情が低いと、「自分に自信が持てない」「自分は必要とされていない」「周りからどう見られているか気になる」など、様々な弊害が生じてくる。何故このように自尊感情が低い状況が近年目立ってきたのか。文部科学省の調査^{*1}によると、核家族化や少子化の影響で、社会性の基礎となる部分、つまり「人とかかわりたいという意欲そのものが低下していること」に原因があるようだ。他の子と一緒に遊ぶことにより、自然に人間関係や集団のルールを学び、規範意識が醸成されていく。しかし、このような経験が幼少時に獲得されないまま就学して来ると、「他人を平気で傷つける」「ルールを守ることができない」「集団への参加を妨げる」等の、新たな問題を引き起こしてしまう場合もあるようだ。

それでは、自尊感情を高めるためにはどうしたらいいのか。ポジティブへの転換力がある人は、うらやましい限りだが、これは大人でも簡単なことではない。ましてや未発達の子どもたちだ。

それでは、周りの大人から褒めてもらうことで、子ど

もたちは自尊感情を高められるのだろうか。

これについては、いつでも好ましい結果をもたらすとは限らない。^{*2}大人に褒められ自信をつけることが出来たとしても、実力以上に過大評価をしてしまったり、周りの子どもからの評価が得られなかったりすると、子どもは他とのギャップにストレスを感じてしまう。

ここで、安定した自尊感情を獲得するのに必要なことは、他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受けとめられる「自己有用感」という感情である。「認めてもらえてうれしい」「役に立ててよかった」「自分が必要とされていると感じた」といった自己に対する評価は、他者とかわる様々な実体験により得られ、自己肯定感とは区別して考える必要がある。学級や学年を超えた異年齢集団や地域との活動を意図的・計画的に組んでいくことで、このような自己有用感を感じられる体験を増やしていくことが大切だ。

友だちから力を借りるということを考えたとき、標題にあるビートルズの楽曲を思い出した。いつの時代でも、周りの友だちから認められ励まされることが、子どもたちにとっては大きな力になることを教えてくれている。

^{*1}暴力行為のない学校づくりについて 文科省 平成23年7月

^{*2}生徒指導リーフ18 国立教育政策研究所 平成27年3月